



# 株式会社菅原組

社内報

vol. 19

2021年4月号

## 社員紹介

VOL.19  
2021年4月号生産性向上推進センター長・  
工事本部工事係長

## まつ だ 浩平



今回は、生産性向上推進センター長の松田さんにお話を伺いました。皆さんの仕事を少しでもスムーズにするため、陰ながら支援していきたいとの熱い思いが伝わりました！

## 入社のかきつけ

平成9年に新卒で入社しました。実家が漁業を営んでおり、家業を継ぐことも考えていました。しかし、父からの「家業を継ぐにしても継がないにしても、一度社会に出て自立するべき」という意見もあり、就職を決意。菅原組を選んだ理由は、高校に来ていた求人の中で一番しつかりしていた会社だったことです。また、土木関係の仕事をするなら海洋土木をしたいと思っていたこともあります。

## 業務内容

現在は、生産性向上推進センターでの仕事がメインです。名前の通り現場工事の生産性を上げるための部所で、2020年に立ち上がったばかりの新部所。主な仕事の内容は、工事に関する最新技術を社内へ導入するこ



とです。具体的には、測量の機械を調べ管理会社に連絡を取り、実際に見せていただくなどをしています。一から新しい技術について勉強し、それを他の社員へ教育しなければならず、苦勞しています。工事本部では現場管理、施工管理全般を担当しています。しかし、人手が足りないときや作業現場が近いときに手伝いをするくらいです。比率で言うと九割五分が生産性推進センターでの業務です。

## 現在の課題

現在の重要な課題は三次元設計の導入です。これは、今まで平面だった図面を、モデリングして立体化する技術です。平面の図面と比べ、誰でもすぐ分かる利点があります。機材や船が入らない場所の判断も簡単にできるようになります。未経験の分野ながら、現場の人へ三次元の製作図をどんどん提案せねばならず、大きなプレッシャーも感じています。

## 趣味について

最近は写真を撮ることが趣味です。全国土木フォトコンテストや全国漁港漁場協会のコ



▲フォトコンテストで佳作をとった作品

ンテストに入賞したこともあります。社内から写真を依頼されることも多く、社内報の写真もいくつか撮っています。いわゆるインスタ映えするような写真を撮り、若い人へのアピールもできたらと思っています。

## 仕事のやりがい

海の近くで育ち、父親が漁業をしていたこともあり、昔から海が好きです。そのため、海に関わる仕事ができることはやりがいの一つです。「浩平」という名前も「海に平和をつげる子になつてほしい」という意味で名付けられました。まさに名前の通りの仕事ができおり、誇りに感じています。

## 今後の目標

私達が行うサポートによって工事がスムーズに進み、できあがったものが評価されることが目標です。皆さまの生産性向上のため、陰のサポート役を引き続き頑張りたいと思っています。

# CHECK! 現場レポート

あなたの知らないあんな現場やこんな現場！  
どんな事例があるのか、このページで要CHECKです！  
今回は東栄漁港外機能保全工事（浚渫）外についてのご紹介！



**現場名** 東栄漁港外機能保全工事（浚渫）外

**着工日** 令和2年8月17日 **完成予定日** 令和3年3月22日  
(令和3年3月18日時点)

**概要**

浦河町	荻伏漁港	浚渫	-4.5m航路浚渫
	東栄漁港	作工	南防波堤 L=103.1m
様似町	鵜苫漁港	作工	南防波堤 L=14.4m
えりも町	歌別漁港	浚渫	-3.5m航路浚渫、-3.0m泊地浚渫
	目黒漁港	作工	旧東防波堤 L=25.9m

**メンバー** 作業所長 ふじもとまさひろ 藤本昌彦 工事主任 すずきしゅうじ 鈴木修二 工事係 たかやまたかのり 高山隆寛



## 工事内容

この工事は、北海道 室蘭建設管理部 発注工事です。  
浚渫は、浅くなった港内を掘って、船舶が安全に通行（航路）や停泊等（泊地）ができるようにします。また、南防波堤や旧東防波堤の傷んでいる防波堤を直したり新たに作ったりする工事を施工しています。  
今回の防波堤工事は、北海道初の工法（工事の方法・作り方）で残置型枠と言って、あらかじめ工場で作ったコンクリート製のブロックを水の中よりダイバーで積重ねてブロックと古い防波堤の空間内に水の中でも固まるコンクリートを入れて防波堤を作っています。（北海道初工法工事）その他に増工となり、8漁港+1漁港同一漁港の合計9漁港の点在工事となりました。



## 作業所の雰囲気

スタッフは、所長（監理技術者）藤本課長、工事係 鈴木主任と3月より応援で高山係員と船舶では第十一すがわら号が藤本所長のもとで業務を行っています。  
協力会社は、(有)泰豊産業・マルトヨ渡島土木(株)、矢口港湾建設(株)と地元、札幌、岩手県等から来て頂き、各社の熟練した職人さんが得意の分野でいい仕事をしてくれています。  
函館から浦河まで約400km(車で移動は、約6時間)あって家に帰るのも中々帰れない状態ですが各社コミュニケーションを取り合い仲良く仕事をしています。  
近くの町は、苫小牧市ですが2時間かかるのでちょっと出かけると言える所でもないので大変ですね。

## 安全のため気をつけているポイント

漁業者や釣り人が多く利用していることあって公衆災害が予想され、特に建設機械搬入時、資材の納入時やダンプトラックや生コンクリート運搬車などが漁港内に入る際の交通誘導や事前の搬入経路の各社教育、漁港付近の徐行運転や防衛運転の周知徹底と啓発看板掲示を都度行っています。  
また、漁港内の濁りがひどく潜水士の視界がゼロに近い場合、アメリカ製の水中ライトを使用させ視界を確保し、潜水士同士は同時通話システムを採用し、潜水災害に努めています。

おめでとう!

# 令和2年度 北海道ゼロ・エミ大賞受賞

この度、当社が北海道ゼロ・エミ大賞受賞を受賞しました!

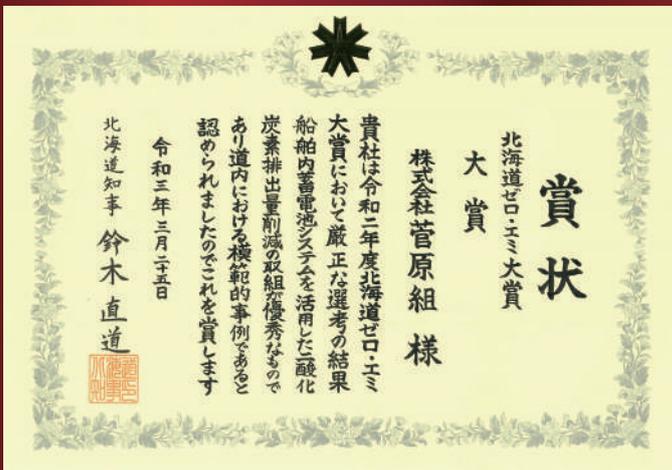
3月25日に開催された授賞式の様子とその内容をお届けします!



△受賞された皆さん

## 表彰式のながれ

1. 開会
2. 選考経過、受賞者報告
3. 賞状・副賞の贈呈、受賞者のことば
4. お祝いのことば
5. 閉会



**開催日** 令和3年3月25日(水) 14:00～

**開催場所** TKPビジネスセンター赤レンガ前5階ラベンダー

**大賞** 株式会社菅原組  
ヨコハマタイヤリッド株式会社 北海道事業所

**優秀賞** 株式会社イトイグループホールディングス  
株式会社 F・K  
株式会社 遠藤建築アトリエ

## 北海道ゼロ・エミ大賞とは?

「北海道ゼロ・エミ大賞」は、廃棄物の発生・排出抑制及び二酸化炭素の排出抑制に関する意識の醸成や環境経営の普及を促し、循環型社会の形成促進と地球温暖化防止に資するため、道内で模範的な取り組みを行っている事業所を表彰する制度です。

## 表彰内容

### 船舶内蓄電池システムを活用した 二酸化炭素排出量削減

開始時期：平成29年(2017年) 12月  
継続期間：3年(申請時起算)

### 令和2年度北海道ゼロ・エミ大賞表彰式



### 令和2年度北海道ゼロ・エミ大賞表彰式



## 取り組み内容

海洋土木事業で使用する大型作業船に、作業時の余剰電力(発電はディーゼルエンジン(軽油))を回収・蓄電する蓄電池を導入し、停泊時は蓄電池の電力を使用することにより、エネルギー利用の効率化を図った。発電機の稼働(軽油の使用)を減らしたことにより、二酸化炭素の排出量を削減。

## 選考理由

- ・国内でも珍しい作業船に蓄電池を導入した先進的な取り組み。
- ・エネルギー使用の平準化により、二酸化炭素の排出を抑制した取り組みであり、他の事業所の模範となる。
- ・また、BDFの活用実績や、地域における清掃活動・植樹等、多方面に渡る環境保全活動も評価。

環境保全のため模範的な取り組みを行っているとして今回の表彰をいただきました。

今後も活動を継続し、次回も表彰いただけるように取り組んでいきましょう!



# 業績の基盤強化研修会WEB

今回WEBにて開催された業績の基盤強化研修会、どのような内容だったのでしょうか？  
管理本部長 小林弘和さんにその詳細を伺いました！

## 活動概要

実施日時 2021年3月25日(木)  
場 所 WEB開催  
参加人数 11名  
講 師 (株)クラーク総研

## 研修の目的

「マネジメント力強化で  
さらなる社員の成長と飛躍を実現し、  
次世代の経営体制の基盤を構築する」

## 研修内容

- ①オリエンテーションとスタートアップ・コメント
- ②トレーニング
- ③課題のプレゼン
- ④レクチャー1「withコロナ時代の建設業～これからの大変革～」  
レクチャー2「菅原組の業績基盤を強くする“マネジメント”」
- ⑤本質トレーニング「企業の倒産事例に学ぶ～幹部として不可欠な“マネジメント”とは～」
- ⑥事前課題に基づくアクティブ・ラーニング「菅原組の業績基盤強化策」
- ⑦個人ワーク&プレゼン「明日から始めるマネジメント」



## 参加者の声

- ・何度も管理者研修を受講させてもらっていますが、自分自身が人材育成や上司としての取り組み方が不足していることを改めて感じました。
- ・自分自身が信用される行動をし、部下にやる気を持たせて良いところは褒めるように心掛けていきたいと思います。
- ・自らの頭で考えて自ら行動することの大事さを痛感しました。
- ・誰にでも明るく元気にあいさつできる社員教育をします。
- ・研修で決めた「新人教育プログラム作成」に参加し、実行します。
- ・自分のやり方だけを強要しないで、諦めず根気強く人材育成していきます。



若手社員対象

／研修レポート／



# 仕事力強化のための“業務改善”研修会

若手社員を対象にWEBで開催された業務改善研修会について  
管理本部長 小林弘和さんにその詳細を伺いました!

## 活動概要

実施日時 2021年3月26日(金)  
場 所 WEB開催  
参加人数 16名  
講 師 (株)クラーク総研

## 研修の目的

「マネジメント力強化で  
さらなる社員の成長と飛躍を実現し、  
次世代の経営体制の基盤を構築する」

## 研修内容

- ①オリエンテーションとスタートアップ・コメント
- ②トレーニング
- ③課題のプレゼン
- ④レクチャー1「withコロナ時代の建設業～これからの大変革～」  
レクチャー2「業務の見える化→生産性向上→仕事力アップの善循環を構築せよ!」
- ⑤事前課題を題材にしたアクティブ・ラーニング「生産性向上に向けた課題と業務改善策」
- ⑥個人ワーク&プレゼン「明日から始める業務改善・生産性向上」



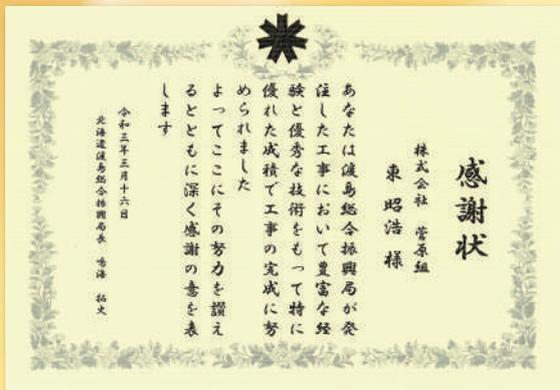
## 参加者の声

- ・生産性向上のために、ICTの推進で覚えることも多いが、若さを利用してどんどん吸収しようと改めて決意しました。
- ・前田講座長のレクチャーの中で「学べば学ぶほど自分の無知に気づく」という話を聞き、勉強をしなければ「何がわからないのかすらわからず」、どんどん理解度が低くなってしまうと危機感を覚えました。
- ・講座長から「2%でも3%でも小さなことの積み重ねが業務改革・生産性向上につながる」ことを教わりました。
- ・大変な時期にも関わらず、オンラインで研修会を開催していただきありがとうございます。
- ・発言を伴うオンラインセミナーは今回が初めての参加でしたが、大きなトラブルもなく、いつもと変わらない講義を受けることができました。
- ・生産性向上を「時間短縮」とばかり思っていたが、講座長から「まずは無駄なことをやめる」というお話から自分の考えていた効率化とは違うアプローチが得られ勉強になりました。
- ・Webでのグループトークも初めてだったが、社内会議にも有用であることがわかったので、上司にも勧めたいと思いました。
- ・若手同士の仕事に対する思いや考えを知れたが、研修がなければお互いを知ることができない状況自体も問題であると感じました。
- ・今回教わった「態度能力」を高めていきたいです。

表彰報告

# 感謝状を いただきました!

令和3年3月16日に北海道渡島総合振興局長より、豊富な経験と技術を生かした工事が評価され、東昭浩さんが感謝状をいただきました!  
みなさんも培った経験、技術を今後活かして東さんの後に続いていきましょう!



## 「子育て応援祝金」贈呈

### 「子育て応援祝金制度」とは?

2017年4月に就業規則(慶弔金規程)により制度化しました。

小学校・中学校・高校・大学等への入学・進学時に御祝金を贈呈しています。

2021年度は御祝金を8名の方々にお渡ししました。入学されるお子さんが会社に来てくださったりして和やかな雰囲気の中で贈呈されました。

ご入学準備のお役に立てただけだと幸いです。皆さんの門出、誠におめでとうございます!

当社ではこれからも子供たちの輝く未来を応援して参ります。

来年度以降、該当するお子様がいらっしゃいましたら遠慮なくご連絡いただければと思います。

### 2021年実績

小学校	2名
高校	2名
専門学校	1名
大学	3名

### 過去実績

2018年	12名
2019年	16名
2020年	8名



## HAPPY BIRTHDAY TO YOU!

### 4月生まれの皆さんをご紹介します。

4/3

工事本部 工事部員  
まつだ なおと  
松田直斗さん

4/12

管理本部 経理課長  
かのう おさむ  
叶野修さん

4/13

管理本部 (しらゆり船長)  
みやざき きよし  
宮崎清志さん